

報道関係者各位  
プレスリリース

2008年12月24日  
ファルメディコ株式会社

=====  
**医療崩壊の危機を救い、よりよい地域医療を創造するために  
次世代型薬局「薬局3.0」を提唱**  
=====

～医療の現状に一石を投じる狭間研至著書「薬局3.0」を12月22日に発売～

大阪府下でハザマ薬局を8店舗展開するファルメディコ株式会社(本社 大阪市、代表取締役、医師、医学博士 狭間研至)は、地域医療制度を支える新しい薬局のあり方を「薬局3.0」と提唱し、実践しています。医療崩壊の危機を救い、よりよい地域医療を創造するために、医療のあり方を考え直すきっかけとなるよう、「薬局3.0(やっきょく・さんてんぜろ)」(発行:薬事日報社)を12月22日に全国の書店で発売いたします。

近年、政府の方針により介護が必要な高齢者の療養の場は、医療機関から在宅・介護施設へと移行しています。在宅療養では、日本人の死亡原因の3分の1を占める「がん」のターミナルケアの場合、治療法は薬物療法が中心となります。また、介護施設では、平成18年度と平成7年度(介護保険法の施行前)と比べると、施設数では約6倍、在所者数が約3倍に伸びており、今後このような介護施設はますます増えていくと予想されます。それに伴い、薬物治療の管理ができる専門のスタッフが必要となってきます。



薬局の外に、薬剤師を必要とする現場があるにもかかわらず、5万軒の薬局と12万5千人にも上る薬剤師のほとんどが、医師から処方された処方箋を調剤する、いわゆる「調剤薬局・薬剤師」であり、在宅・介護の現場で患者をサポートできる体制が整っていないのが現状です。

薬剤師が積極的に外に出向き、臨床の現場で活躍することは、崩壊の危機に面している日本の地域医療の一端を救う手段になると確信しております。

薬局の息子として育ち、現役の医師でありながらも実家の薬局を継いだ著者だからこそできた、医療と薬業の橋渡しによる新しい医療環境の創造、薬剤師の新たな可能性を、本書を通し広く世に伝えることによって、崩壊の危機にある現在の地域医療のあり方を見直し、よりよい医療制度を作っていくきっかけとなることを願っております。

本件に関するメディアからのお問合せ先  
ファルメディコ株式会社 ブランドマネジメント部 岩本  
〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-5 山西屋・西孫ビル3F  
TEL: 06-4801-9555 FAX: 06-4801-9556 e-mail: press@pharmedico.com  
<http://www.pharmedico.com/>

## 【参考資料】

### 『薬局 3.0』概要

タイトル	薬局 3.0 ( やっきょく・さんてんぜろ )
著者	狭間研至
出版社	薬事日報社
定価	2,800 円 ( 税別 )
発売日	平成 20 年 12 月 22 日
判型	A5 版
ページ数	242 ページ
ISBN コード	ISBN978-4-8408-1065-4
内容	第 1 章：薬学生に人気がない「調剤薬局」 第 2 章：医薬分業がもたらしたもの 第 3 章：医薬分業は永遠に成長する？ 第 4 章：薬局 51 年周期説 第 5 章：第 3 世代薬局到来の必然 第 6 章：コミュニティファーマシーと補完医療 第 7 章：コミュニティファーマシーと在宅医療 第 8 章：今を生きることの幸運を生かそう

### 著者プロフィール

狭間 研至 ( はざま けんじ )

医師・医学博士・外科専門医・呼吸器外科専門医、

ファルメディコ株式会社代表取締役社長、トライリーム株式会社代表取締役社長、  
有限責任中間法人 薬剤師あゆみの会 理事長、大阪大学医学部 呼吸器外科臨床登録医、  
インターネット医科大学 呼吸器内視鏡外科教授、All About がん・がん予防 ガイド

大阪大学医学部卒業後、大阪大学医学部付属病院 ( 第一外科 )

大阪府立病院 ( 現 大阪府立急性期総合医療センター )、宝塚市立病院にて外科診療に従事。  
大阪大学大学院医学系研究科博士課程終了。

著書に「外科医、薬局に帰る - 浪花のあきんドクターの「医薬協業」への挑戦 - 」

( 発行：薬局新聞社 ) がある。

### ファルメディコ株式会社の概要

平成 16 年 2 月設立 ( 創業 昭和 51 年 12 月 )

薬局の運営、システム開発、WEB 制作等を手がける。

代表 狭間研至が提唱する「薬局 3.0」( ) の実現化に向け、  
少子高齢化社会を支える新しい医療環境の創造に取り組んでいます。

#### 薬局 3.0

「薬局 3.0」とは、第 3 世代薬局のことで、狭間研至が提唱する 21 世紀に求められる新しい薬局のあり方を指しています。

昭和の時代に数多く見られた町の小さな薬局を「薬局 1.0」( 第一世代薬局 )、この 15 年で急速に広がった調剤薬局を「薬局 2.0」( 第二世代薬局 )、従来の調剤業務に加え、「在宅 介護施設における医療支援」と漢方・サプリメント・健康食品等、「補完医療の供給」といった 2 つの機能を併せ持つ多機能型薬局を「薬局 3.0」( 第三世代薬局 ) と捉えています。